

世界中の関心を持つ人々が参照できるデポジット制度の情報整備

(Formulating Information of Deposit-Refund Systems that Related People All Over the World can Refer)

○沼田 大輔 (numata@econ.fukushima-u.ac.jp)*

* 福島大学 経済経営学類

(I) 概要

- ・リユース(再利用)やリサイクル(再資源化)を促すための、使用済み製品の回収のための仕組みの一つとして、**デポジット制度**と呼ばれる仕組みがある
- ・デポジット制度とは、商品の購入時に、製品価格に加えて、ある額を余分に支払い(デポジット)、消費後、製品を包んでいた容器等を、ある所定の場所に返却すると、商品の購入時に余分に支払った額の全部もしくは一部を返金してもらえる(リファンド)という制度のこと(沼田 2014)
- ・デポジット制度の導入例は世界各国に様々にあるが、それらの導入の具体的な仕組みなどの情報は共有されているとはいえない
- ・一方、発表者はデポジット制度の具体的な仕組みについて、**日本を起点に、ヨーロッパ11カ国と北米の様々な州で、関係者にヒアリング**を重ねてきた
- ・本発表は、これまでの経緯、これらの調査で得た成果の例、本研究の今後の方向性を紹介するものである

(II) これまでに報告者が実施してきた関連する研究例

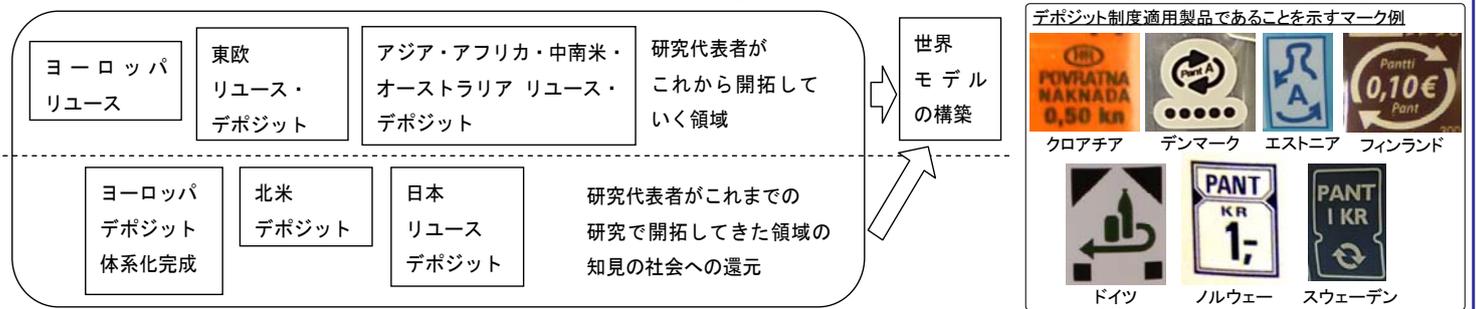
- ・平成19-20年度 科学研究費補助金(若手研究スタートアップ)「デポジット・リファンド制度の導入における障害の緩和に関する経済学的研究」: 研究代表者として、**アメリカのカリフォルニア州における飲料容器デポジット制度についての訪問ヒアリング調査**を実施(沼田 2014)
- ・平成21-23年度 科学研究費補助金(基盤研究(B))「廃棄物政策のインセンティブ設計」: 研究分担者として、**カナダのオンタリオ州、アルバータ州の飲料容器デポジット制度について、訪問ヒアリング調査**を実施(沼田 2014)
- ・平成25-26年度 科学研究費補助金(若手研究(B))「リユース・デポジットの日欧比較」: 研究代表者として、10か月間、スウェーデンのルンド大学 国際環境産業経済研究所(International Institute for Industrial Environmental Economics: IIIIE)を拠点に、**ヨーロッパで法的にデポジット制度が規定されている国および関連の国すべて(11か国)を訪れ、30のステークホルダーに訪問ヒアリング調査**訪れた国は: 法的にデポジット制度が義務付けられている国々: **クロアチア、デンマーク、エストニア、フィンランド、ドイツ、ノルウェー、スウェーデン** 法的にデポジット制度を実際に導入することを真剣に議論している国々: **ラトビア・リトアニア** 法的なデポジット制度についてよりよく理解するのに有用と見られる国々: **オーストリア、スロベニア**
- ・福島大学生協同組合と報告者のゼミが協力して実施している、**福島大学における弁当容器へのデポジット制度の適用**
- ・報告者が福島県容器リユース推進協議会の座長として、**福島県で展開している日本酒の瓶のリユースの社会的な仕組み**の検討

(III) これまでの報告者の研究で分かってきたことの例

- ・デポジット制度の形は国によって様々だが、**それらの情報がヨーロッパ内においても十分整理・共有されていない**
- ・デポジット制度について、**いずれの国も、基本的に自国の状況のみを理解**。諸外国の状況をしっかり把握したうえで、自国の廃棄物政策を検討できていない(現実と学術研究における議論の間に大きな乖離、ヨーロッパにおけるリユース・デポジットのイメージと現実の間に大きな乖離を生んでいる懸念)
- ・これまでの研究で見えてきた着眼点例:
 - 対象範囲: **どの容器・どの製品を対象にするか**
 - 消費者から回収拠点までの使用済み容器のルート: **回収拠点で、手で回収するか、機械で回収するか; プラスチックコンテナを使うか**
 - リファンドの財源: **デポジット額を容器ごと・製品ごとにくらにするか; このことを製品・値札などどのように表記するか**
 - 回収拠点からリサイクル業者や製造業者への使用済み製品のルート: **回収拠点で、回収した容器を圧縮するか; メーカー・大きさごとに分類するかなど**
 - 制度の運営: **販売場所からのデポジットの回収; 回収拠点へのリファンドの充当; 未返却預り金の管理・運用; 回収した資源の売却など**
 - 制度の効果: **リサイクル率; 容器の回収率; リユース可能な容器のシェア**
 - 導入理由: **1) 収集・リサイクル増加、2) 散乱ごみ削減、3) リユース可能な容器のシェア減少の防止、4) 飲料容器の種類を増加させることの正当化**
 - 回収やリファンドの効率: **国外から持ち込んだ容器が否かを区別するか、リファンドをどう支払うか**
 - ポリシーミックス: **デポジット制度と他の政策手段(例えば、ワンウェイ容器の使用に対する課税)の組み合わせ**
 - 競争: **デポジット制度の対象とする容器の選定、主体間の競争を促すスキームの有無**
- ・以上を踏まえた出版物を作成中。例えば、沼田(2015)、Numata (2015)、沼田・リンクヴィスト・東條 (2015) ほか

(IV) 本研究の今後の課題

- ・**アジア・アフリカ・中南米・オーストラリアなどでのデポジット制度についての情報収集、インタビュー調査、現地視察 ← コネクションを探しています**
- ・北米・ヨーロッパのデポジット制度についての知見の社会への還元、フォローアップ調査
- ・日本のリユース・デポジットの仕組みについての研究の継続・深化
- ・世界中の関係主体、関心を持つ人々が、**国際的に参照・共有し、議論を深められるように、これらの研究を整理・一般化し、英語で体系化して、リユース・デポジットに関する、日本・世界各国における、中立的な知見・情報の拠点を整備する**。そして、
 - これをもとに、**経済学的な分析の方向性を示し、現実との相互作用により、新しい知見を引き出す**
 - **リユース・デポジットに関する現実と学術研究の乖離、各国間の認識の相異を埋め、廃棄物政策の形成・推進・新たな施策の提起への貢献を目指す**



参考文献:

- ・沼田大輔 (2014) 『デポジット制度の環境経済学 —循環型社会の実現に向けて—』 勁草書房(単著) 2014年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費「学術図書」)(課題番号: 265154)を頂きました。
- ・沼田大輔 (2015) 「ヨーロッパの現状からみる容器リユースの推進に向けた論点」『環境経済・政策研究』[環境論壇「リサイクル制度の再評価」], 8(1), pp. 89-91
- ・Numata, Daisuke (2015) "Policy Mix in Deposit-Refund Systems" 15th INTERNATIONAL WASTE MANAGEMENT AND LANDFILL SYMPOSIUM で報告予定(採択)
- ・沼田 大輔、トーマス・リンクヴィスト、東條 なお子 (2015) 「ヨーロッパにおける飲料容器デポジット制度の着眼点」環境経済・政策学会2015年大会 報告予定(採択)
- ・Numata, Daisuke, Lindqvist, Thomas, Tojo, Naoko (2015) "Formulating Common Understanding Ground on Beverage Container Deposit-refund Systems in Europe" BIT's 2nd Annual International Conference of Emerging Industry 2015 (ICEI-2015), Shenzhen Convention and Exhibition Center, China, 2015/4/19

謝辞: 本研究は、2015-2017年度 科学研究費補助金(若手研究(B)) 「リユース・デポジットの世界モデルの構築」 課題番号: 15K16158 (研究代表者)の補助を受けて実施しているものです。ここに記して感謝いたします。